

ポジティブリスト対象病害虫の解説

ゾウムシ科の一種

学名：*Otiorhynchus rugosostriatus* (Goeze)

英名：rough strawberry root weevil

本種は、ヨーロッパ原産で、北米では単為生殖のみが知られる。多食性で、成虫は葉を、幼虫は土中で茎や根を食害する。他の *Otiorhynchus* 属ゾウムシと同様に飛翔能力を欠く。輸入植物検疫では、アメリカ、カナダ及びチリ産スグリ属 (*Ribes*) 生果実並びに越冬中の成虫がアメリカ産クリスマス用モミ属等針葉樹切り枝から発見されている。

分布地域：ヨーロッパ、カナダ、アメリカ、チリ、オーストラリア、ニュージーランド。

寄主植物：スグリ属、イチゴ、シクラメン、クランベリー、ラズベリー等。

形態：体長6～8.5mm。背面から見て、頭部と前胸背板は黒色。翅鞘は赤みを帯びた黒色で、赤みには個体差があるが、漆黒にはならない。翅鞘基部は丸く、肩部は角張らない(図1)。翅鞘は鱗片を欠き、間室には褐色の先の曲がった毛を2列に装う(図2)。吻に中央隆起条はない(図3)。触角の中間節は7節、柄節は前胸前縁を超える。腿節は歯状突起を欠く(図4-a)。

本種の属する *Otiorhynchus* 属は世界中で1,000種程度おり、農業害虫として、特定重要病害虫であるイチゴクチブトゾウムシ (*O.ovatus*) などが知られている。

防除：薬剤散布による成虫の防除、天敵線虫による幼虫の防除等。



図1 成虫の全体図

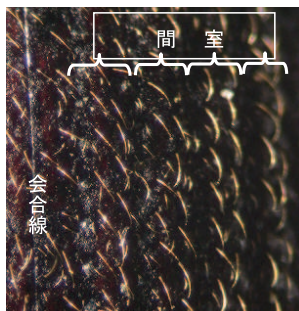


図2 翅鞘表面

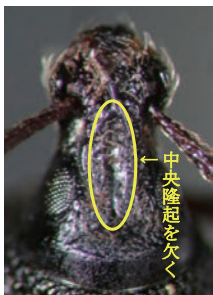


図3 頭部背面

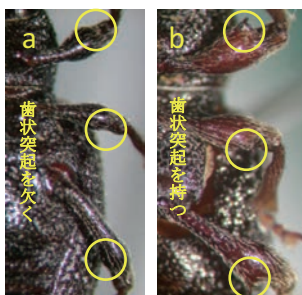


図4 腿節 (a 本種、b イチゴクチブトゾウムシ)

トンキンキクイムシ

学名：*Xyleborus cognatus*

キクイムシは主に木材に細い巣穴(孔道)を掘り加害する昆虫である。本種は材部に孔道を掘り、アンブロシア菌を繁殖させ、この菌を食す養菌穿孔キクイムシ(アンブロシアビートル、ピンホールボーラー)であり、丸太を単に巣(菌の栽培場所)として利用するだけなので、内樹皮(形成層を含む生きた組織)を食し、直接木から栄養を摂取する樹皮下穿孔キクイムシ(バークビートル)と比較して寄主範囲が広い。

近年における輸入植物検疫では、マレーシア産のショレア属、ディプテロカルプス属、パラクイウム属木材から発見されている。

分布地域：インド、ベトナム、インドネシア、フィリピン、マレーシア、オーストラリア、パプア・ニューギニア、カメルーン等。

寄主植物：ラワン、セラヤ、カプール、メランティ、マトア、ポネティア、カロフィルム、デレニア、タイワントウヒ等。

形態：本種の所属する *Xyleborus* 属には多くの近似種が存在しているが、本種は体長2.5～3.0mmで、体色は赤褐色で翅鞘後半は黒褐色である(図1)。翅鞘斜面部は光沢があり、第1、第3列間部の2個(まれに3個)の小突起(図2)は、他の列間部の小突起より明らかに大きいことが特徴となっている。

防除：被害木の除去、薬剤散布。



図1 トンキンキクイムシの全体図

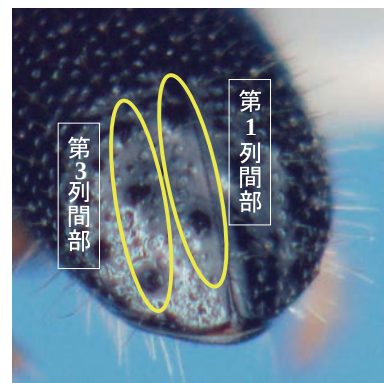


図2 翅鞘斜面部